

# はままつスタートアップ・イノベーション拠点 連携ビジョン

2024年3月8日

はままつスタートアップ・イノベーション拠点推進協議会

# 連携ビジョンの構成

## 1. 連携ビジョンの趣旨

- (1) 連携ビジョン策定の背景
- (2) 連携ビジョンの位置づけ

## 2. 連携ビジョン概要

- (1) 目指す拠点の将来像

## 3. 現状分析

- (1) 浜松市の現状
  - ①地域の抱える社会課題
  - ②本市の強み
  - ③スタートアップ関連施策
  - ④現状分析
- (2) 連携の現状
  - ①浜松地域の企業・団体と他地域スタートアップとの協業事例
  - ②協議会参画機関による取組
- (3) 連携の課題
  - ①課題の抽出
  - ②課題の現状

## 4. 将来像に向けた施策

- (1) 施策体系  
「課題」を「施策」へ
  - ①（整える）浜松市の環境整備
  - ②（つながる）浜松市と首都圏等大都市との連携・交流
  - ③（生み出す）実証プロジェクトの誘発
  - ④（役立てる）社会実装とビジネス化

## 5. ロードマップ

- (1) KGI
- (2) 推進体制

# 1. 連携ビジョンの趣旨

## (1) 連携ビジョン策定の背景

- 浜松市では、まち・ひと・しごとの一体的・総合的な創生により、「元気なまち・はままつ」を実現し、人口減少からの脱却、転換を図るため、市の産業ビジョン「はままつイノベーション構想」に基づき、スタートアップ支援や、オープンイノベーションの推進に取り組んでいる。
- 2022年11月、政府により「スタートアップ育成5カ年計画」が策定され、スタートアップを取り巻く環境は大きく前進。政府の動きに併せ、スタートアップ支援に力を入れる地方自治体も増えている。
- 一方、足元のスタートアップへの投資額は、関東圏が全体の8割以上※を占めている状態が続くなど、依然として、首都圏等大都市にヒト・モノ・カネが集中している。
- このような状況の中で浜松市をはじめとする地方は、首都圏等大都市と競争することや地方同士で少ないパイを奪い合うことは得策ではない。
- 首都圏等大都市との交流・連携を通じ、新しいアイデアやビジネスが次々と生まれ、そこで誕生した製品やサービス等を成長・発展させ、それを首都圏等大都市の発信力を活かして、全国・海外へ広く展開することが重要である。
- 浜松市において、こうしたエコシステムを有するイノベーション拠点を形成させることを目的として、エリアプラットフォームとして「はままつスタートアップ・イノベーション拠点推進協議会」を設立し、産学官金による取組の指針として「連携ビジョン」を策定する運びとなった。

※出典：一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター「ベンチャー白書2023」

# 1. 連携ビジョンの趣旨

## (2) 連携ビジョンの位置づけ

### 【趣旨】

首都圏等大都市との地域間連携を通じた、浜松市におけるスタートアップ・イノベーション拠点の形成に向け、産学官金の関係者間で「目指す拠点の将来像」、「現状」、「施策」等を共有し、連携して取組みを進めるための指針。

### 【計画期間】

2024～2028年度（5年間）

### 【対象地域】

静岡県浜松市全域（「まちなか都心部」及び「天竜区二俣地区」を中心に拠点形成）

### (対象地域の考え方)

対象地域は浜松市全域とするものの、以下の特徴を持つ「まちなか都心部」「天竜区二俣地区」をモデル地区と位置付けて取組を先行して進め、その成果をさらに展開し市全体への裨益を目指す。

#### <まちなか都心部>

- 首都圏等大都市へのアクセスに恵まれ、地域内外の多様な人材、企業、インキュベーション施設等が集積

#### <天竜区二俣地区>

- 自然豊かであると同時に、解決すべき社会課題を多く有する 中山間地域、天竜地域の玄関口

## 2. 連携ビジョン概要

### (1) 目指す拠点の将来像

▶ 本ビジョンにおいて目指す拠点の将来像を以下に示す。

#### 【目指す拠点の将来像】

本市が持つあらゆる資源と首都圏等大都市のスタートアップをはじめとする先進的な資源との連携を強化することで、**地域の社会課題解決等をテーマ**とした新しいアイデアやビジネスが次々と生まれるエコシステムを有する「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」

#### \*拠点

施設、特定の地区といった地点ではなく、一定のエコシステムを有する空間的・社会的まとまりのこと。

#### \*あらゆる資源

自然環境、産業、文化、社会課題に加え、エコシステムを形成するプレイヤー等を含む。

#### \*スタートアップ

社会課題を解決するために、革新的な製品開発であったり、ビジネスに挑戦する企業。

#### (拠点形成のコンセプト)



### 3. 現状分析

#### (1) 浜松市の現状

##### ①地域の抱える社会課題

▶ 本市は、人口減少・少子高齢化や産業構造の変化など、広範かつ多様な社会課題を抱えている。

分野	社会課題
人口	<ul style="list-style-type: none"><li>人口79万人。2000年代半ばに人口減少に転じる。2050年には70万人を割込む懸念。</li><li>少子化で自然減は拡大の一途。社会減になる年もある。</li><li>若年層の流出。大学生のUターン就職率が2割未満と低い。人手不足、人材確保が課題。</li><li>特に天竜区では高齢者人口が約47%に達する年少人口が約7%に留まるなど、人口減少、少子高齢化が顕著になっている。</li><li>人口の3%を外国人が占める。定住化に伴う課題に加え、高齢化に伴い介護等が深刻化する。</li></ul>
産業	<ul style="list-style-type: none"><li>近年、廃業率が開業率を上回る年が連続している（2015～2020年）</li><li>新産業創出（成長7分野）に力を入れるも、輸送用機器産業への依存度が高い。</li><li>主力の輸送用機器産業は、100年に一度ともいわれる大変革の最中にある。</li><li>デジタル人材やIT関連スタートアップをはじめとする、産業を支える人材の不足。</li><li>まちなか都心部、天竜区二俣地区等の賑わい創出の不足。</li><li>農業・林業の担い手不足。農林水産業のスマート化。</li><li>DX、カーボンニュートラル、サイバーセキュリティ等への対応。</li></ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"><li>自動車分担率が66.6%と高い。免許を返納した高齢者が交通弱者となる。</li><li>特に中山間地で交通弱者の問題が深刻。</li><li>人口10万人当たりの人身事故は、政令市の中で14年連続ワースト1位。</li></ul>
環境 インフラ	<ul style="list-style-type: none"><li>各種インフラの老朽化。</li><li>CO<sub>2</sub>の排出量を2030年度までに2013年度に対して30%減少させる目標。</li><li>自然災害への対応。減災対策。</li><li>生態系変化への対応（シカ・イノシシ等の分布拡大）</li></ul>

### 3. 現状分析

#### (1) 浜松市の現状

#### ②本市の強み

▶ 一方で、本市は多くの特色ある地域資源も有している。

##### <地勢等>

- ・市域面積は約1,558平方キロメートルであり、浜名湖・遠州灘・天竜川及び市北部の森林など、豊かな自然をはじめ、産業・歴史・伝統文化などが残されており、全国で2番目に広い。
- ・東京・大阪の大都市圏のほぼ中間に位置し、東海道新幹線・新旧東名高速道路によって結ばれている。さらに今後は三遠南信道の開通により南北交通の充実も見込まれる。

##### <教育>

- ・理系の静岡大学浜松キャンパス、浜松医科大学、光産業創成大学院大学が存在し、産学連携が盛んで、静岡文化芸術大学など文系の大学と合わせて7大学が存在する。他地域の大学との連携事例も多い。
- ・大学発ベンチャー企業も多く輩出している。

##### <社会環境>

- ・スタートアップに対する支援策が、企業間マッチング・社会実験に対する協力・資金面など多方面にわたっていることに加えて、産学官の協力・連携体制なども整備されている。
- ・他者の受け入れに寛容な土地柄があり、新規事業創出や企業の進出を歓迎する社会的土壌がある。

##### <社会課題>

- ・人口、産業、交通、インフラ、環境など全国共通の社会課題を抱えている。
- ・都市部、中山間地など市域内においても抱えている社会課題は異なる。
- ・多様な社会課題を抱える国土縮図型都市であり、実証実験フィールドとしては最適。

はままつスタートアップ・イノベーション拠点 連携ビジョン

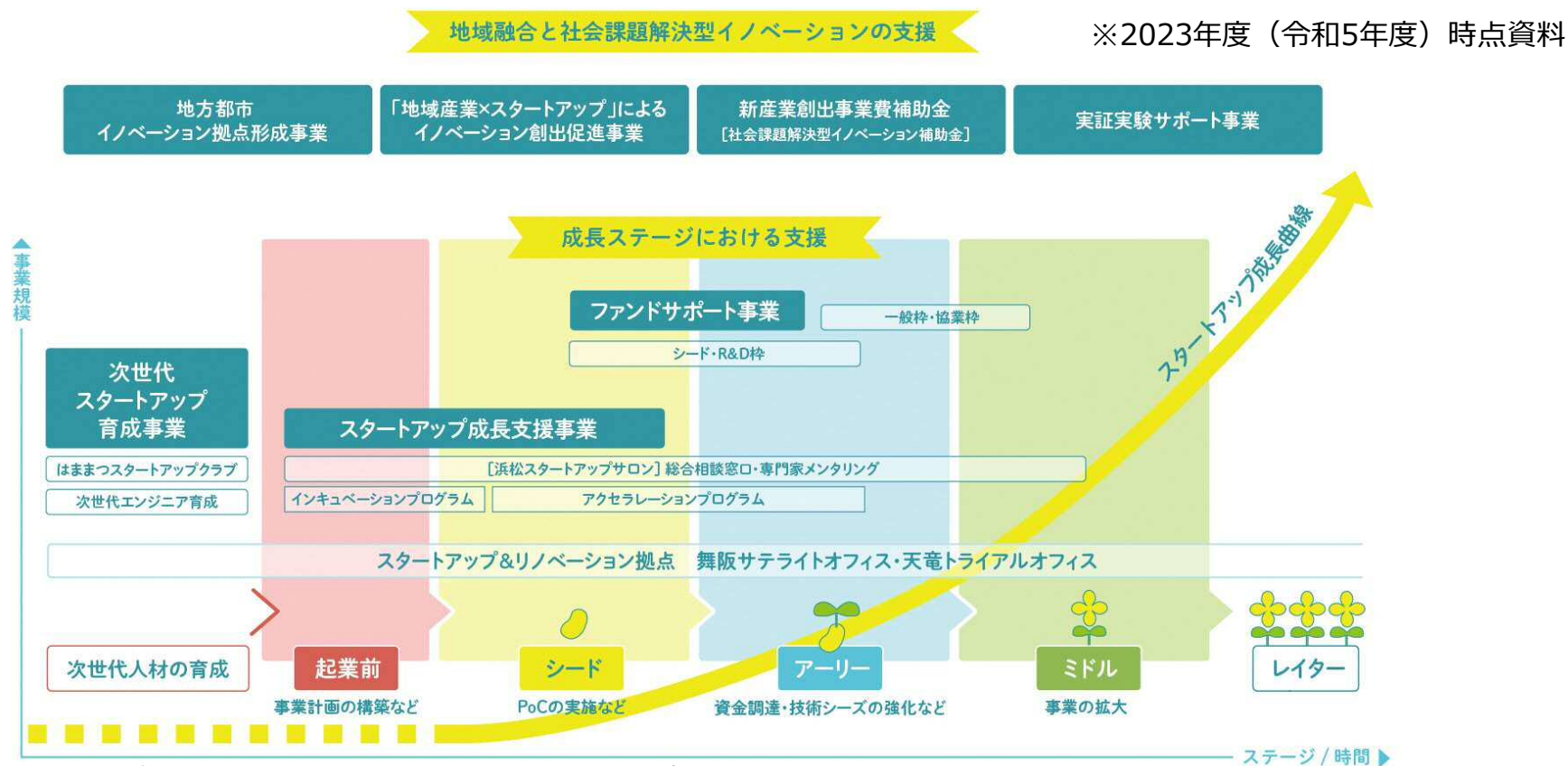


### 3. 現状分析

#### (1) 浜松市の現状

#### ③ スタートアップ関連施策

- 多岐にわたるスタートアップ支援施策は本市の大きな強みのひとつである。



はままつスタートアップ・イノベーション拠点 連携ビジョン



### 3. 現状分析

#### (1) 浜松市の現状

#### ④ 現状分析

- 将来像に向けた施策を検討するため、本市の現状について整理を行う。

	プラス要素	マイナス要素
内部環境	<b>強み</b> 1. スタートアップ関連施策と推進体制が充実している。 2. 多様な社会課題を抱える国土縮図型都市であり、実証実験フィールドとしては最適である。→社会課題を成長のエンジンへと転換。 3. 産学官金連携のオール浜松体制で取組む域内連携が構築されている。	<b>弱み</b> 1. 人口減少・少子高齢化等に起因する多様な社会課題を解決しなければ、地域経済が衰退する懸念がある（特に中山間地）。 2. 主力の輸送用機器産業は、100年に一度ともいわれる大変革の最中にあり、新たな産業の創出が求められている。 3. 大企業・中堅企業は首都圏等スタートアップとの連携が起きているが、中小企業との連携は進んでいない。
外部環境	<b>機会</b> 1. 国は「スタートアップ育成5カ年計画」を策定し、スタートアップの育成に力を入れている。 2. 国の「デジタル田園都市国家構想」では、デジタルの力で、地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図ろうとしている。 3. 首都圏等大都市で、スタートアップ連携拠点施設の設立が相次ぎ、地方との連携が盛んになりつつある。	<b>脅威</b> 1. 他地域・都市もスタートアップ支援、首都圏等大都市との連携による社会課題解決に力を入れている。 2. 首都圏等スタートアップからみると、全国各地に連携候補先がある。 3. スタートアップは、国内だけでなく海外も視野にいれており、海外にアクセスしやすい地域に集積しやすい。

### 3. 現状分析

#### (2) 連携の現状

#### ① 浜松地域の企業・団体と他地域スタートアップとの協業事例（大企業、中堅企業）

➤ 連携の現状として、浜松地域の企業・団体と他地域のスタートアップとの協業事例を記載する。

SU所在地	協業のテーマ	区分	分野	(市事業による)
愛知県	空飛ぶクルマの製造に向け、基本合意書を締結。保有する工場を活用し製造予定	大企業	交通	
東京都	農業系スタートアップに出資、ドローンビジネスの基盤強化を目指す	大企業	産業	
群馬県	伸縮センサーを活用した障がい者向けのeスポーツ環境の充実	大企業	その他	*
東京都	AIによるデンタル切削加工機ツール折れ防止システムの開発	大企業	産業	*
愛知県	自動運転EVを用いた屋内外対応型無人搬送サービスの提供	大企業	交通	
愛知県	在日外国人向け生活支援アプリの活用	大企業	その他	
愛知県	自動走行車台の事業開発	中堅企業	産業	
東京都	地域特性を踏まえた災害廃棄物発生量推計可能性を浜松市域にて検証	中堅企業	危機管理	*
千葉県	EV用HMIによる電動バイクの開発	中堅企業	交通	*
茨城県	新たな風力発電設備で社会課題解決に貢献	中堅企業	インフラ・施設	*
島根県	装着するだけで健康になる新しいフィットネスギアの開発	中堅企業	医療・福祉	*
大阪府	工場で排出されるCO2を植物工場で有効活用	中堅企業	産業	*

### 3. 現状分析

#### (2) 連携の現状

#### ① 浜松地域の企業・団体等と他地域スタートアップとの協業事例（中小企業等）

- 浜松地域では多様な企業・団体と他地域スタートアップとの間で協業が行われている。
- 連携先のスタートアップの所在地は首都圏等大都市が中心である。
- 大企業は独自に連携を図り、中堅企業もスタートアップ連携を始めつつあるが、中小企業や各種団体はまだ独自のネットワークは有していない。

SU所在地	協業のテーマ	区分	分野	(市事業による)
静岡市	山間地茶園の有機緑茶の性質を最大限に活かした付加価値の高いサステナブルな粉末茶の製造	中小企業	産業	*
東京都	サブスクサービスにより飲食店需要喚起を実証。アフターコロナを見据え、街中を中心に飲食店登録	中小企業	産業	*
東京都	オンライン理学療法士等が効果的な機能訓練計画を実施できる方法を実証	各種団体	医療・福祉	*
東京都	老健における入居者のQOL向上を目的に、市内施設において、排泄デバイスを用いた実証を、2か月間5名に実施。失禁率の改善と排泄ケアについての意識向上を確認	各種団体	医療・福祉	*
東京都	ワークシェアリングサービス「K」にて、浜松市内の介護事業所と市内ワーカーをマッチングすることで介護人材不足解消を実証	各種団体	医療・福祉	*
東京都	三ヶ日みかん産業の作業効率向上に向けた実証実験及びVR技術&自動走行技術を用いたハウス内作業ロボットの開発	各種団体	産業	*
長野県	衣服感覚で着用できる歩行アシストロボットの実証実験	行政機関等	医療・福祉	*
兵庫県	AI解析による衛星データを活用した自治体の作付け調査及び農家の土壌分析を支援するアプリケーション開発	行政機関等	産業	*

### 3. 現状分析

#### (2) 連携の現状

#### ②協議会参画機関による取組（アンケート調査結果）

- 本市における連携の現状の把握の参考とするため、「はままつスタートアップ・イノベーション拠点推進協議会」参画機関を対象にアンケートを行った。

協議会委員へのアンケート結果 (N=10)	地域内連携			他地域との連携	
	自団体単独	行政との連携	地元企業との連携	他地域大企業・中小企業との連携	他地域スタートアップとの連携
子育て・教育分野	3	2	2	0	2
医療・福祉分野	6	3	1	1	2
インフラ・施設分野	1	2	1	1	0
交通分野	1	3	0	3	2
危機管理分野	2	1	1	0	0
産業分野	6	9	8	6	3

#### 【アンケート結果整理】

- 社会課題分野での連携はあまり行われていない。
- 他地域スタートアップとの連携もあまり行われていない。
- 産業分野での連携は盛ん。→連携体制は整っている

### 3. 現状分析

#### (3) 連携の課題

##### ①課題の抽出

➤ 協議会参画機関アンケート等を踏まえ、市内の課題や、スタートアップと連携するための課題について整理した。

浜松市内の課題（地域・企業）	スタートアップと連携するための課題
<ul style="list-style-type: none"><li>ものづくり系同士の連携が中心で、他産業とのコラボレーションが生まれていない。</li><li>ものづくりに特化、ことづくりの視点の欠如（ドリルの穴理論）</li><li>大企業・中堅企業は、他地域とのネットワーク形成ができていますが、中小企業は地域内での連携にどどまっている。</li><li>既存事業の深化と比較して、新事業を探索する体制が整っていない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>首都圏等スタートアップにとって、多くの連携候補がいるなかで、どう浜松市の企業の特徴や勢いを見せられるのか。</li><li>持続的な連携ができるだけの「能力」「成長性」「信用力」を備えた相手かどうかの見極めが困難である。</li><li>浜松市に思い入れが少なく、単に、ビジネスのネタ探し、PoCの場としての活用のみで、いつでも市から撤退する可能性あり。</li><li>何度か視察やワーケーションに来て、課題の整理や提案して終わり、というケースが多く、本腰を入れて連携まで進まない。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>他都市との差別化（共創するための優位性確立）</li><li>「浜松」⇔「スタートアップ」のマッチング機能</li><li>単なる実証実験に終わらないためのビジネス視点の連携</li></ul>	

### 3. 現状分析

### (3) 連携の課題

#### ②課題の現状

➤ 整理した課題についての現状は次のとおりである。

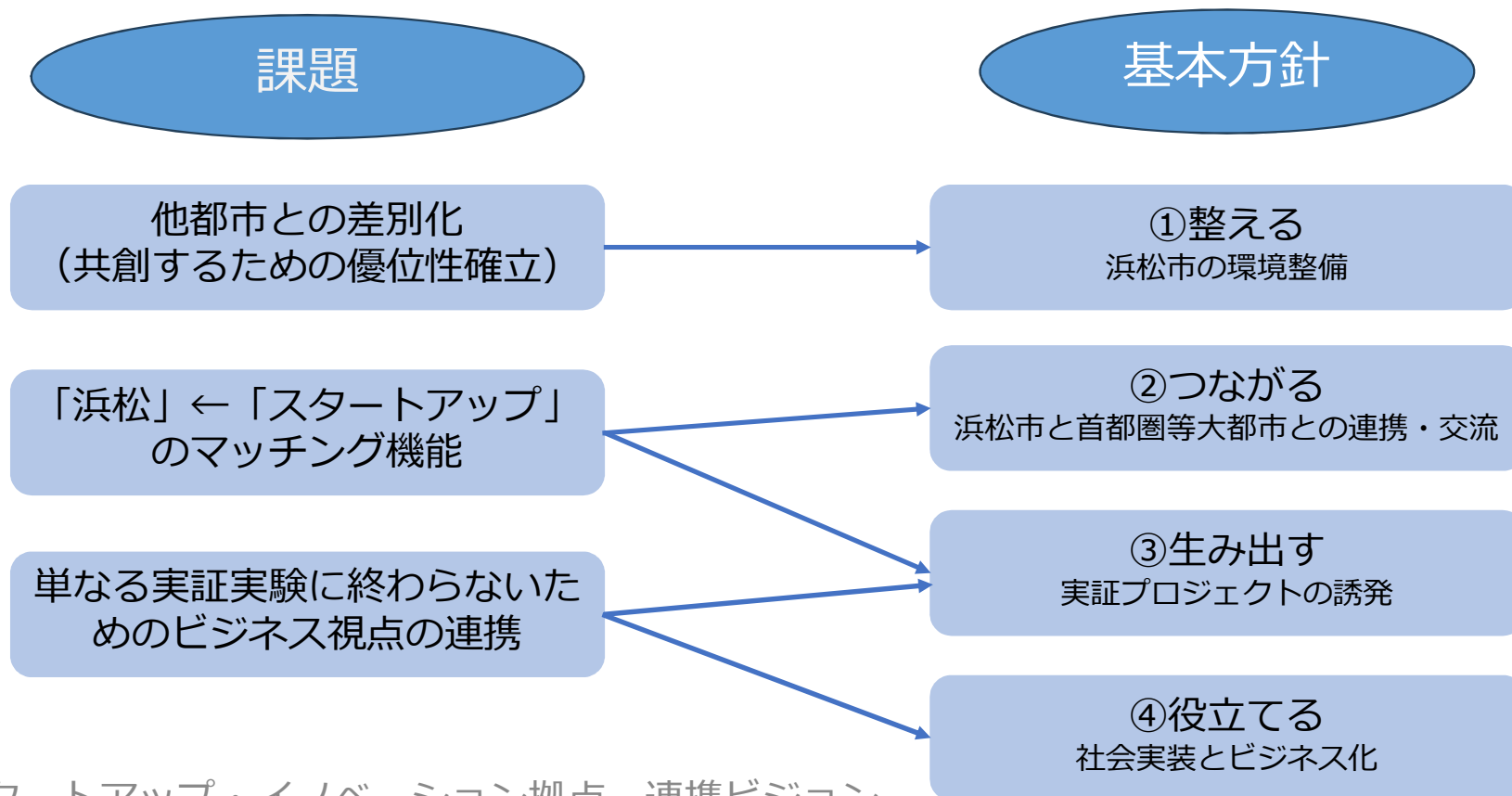
課題	現状
他都市との差別化 (共創するための優位性確立)	良くいえば「国土縮図型都市」。悪く言えば「特色のない幕の内弁当」。社会課題の選択と集中による一点突破ができない弱みもある。 スタートアップ支援、産学官金連携体制は、他都市より先行しているが、他都市も社会課題解決イノベーションに力をいれており、キャッチアップされ埋没する可能性あり。
「浜松」⇔「スタートアップ」のマッチング	市内中小企業と首都圏等大都市のスタートアップ企業がお互いを知るチャンネルをもっておらず、自力ではチャンネルを構築できない(大企業・中堅企業は独自のチャンネルを持っている)。「課題」と「解決方法」の情報を蓄積しマッチング・コーディネートする機能は、一部の民間施設が積極的に活動しているものの全体としては不足している。
単なる実証実験に終わらないためのビジネス視点の連携	中小企業の多くは、技術志向が強く、ことづくり(課題解決)視点が欠如している。首都圏等大都市のスタートアップ企業は、本市を実証実験の場所としか捉えていないケースもある。それら要因により、社会実装になかなか結びつかない。

## 4. 将来像に向けた施策

### (1) 施策体系

#### 「課題」を「施策」へ

- 課題を解決し、拠点の将来像を目指すため、必要な施策の基本方針、推進方針、重点ポイントを定める。



## 4. 将来像に向けた施策

### (1) 施策体系

基本方針	推進方針	重点ポイント
① (整える) 浜松市の環境整備	スタートアップ支援やオープンイノベーション推進に加え、浜松市が持つあらゆる資源の発掘・育成と棚卸しを行い、地域内連携を強化することで「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」形成のための環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップ支援</li> <li>オープンイノベーションの推進</li> <li>次世代人材の育成</li> <li>市域内での連携強化</li> <li>地域資源と課題の把握、集約</li> <li>まちの魅力向上</li> </ul>
② (つながる) 浜松市と首都圏等大都市との連携・交流	首都圏等大都市のスタートアップ等への情報発信を行い、浜松ファンを作り、浜松地域と関係性を持つ企業を増やし、連携を強化することで、「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」の形成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>首都圏イノベーション拠点施設等を通じた情報発信</li> <li>首都圏ビジネス情報センターによる情報発信</li> <li>浜松市のイノベーション拠点施設の活用</li> <li>ブランディング</li> <li>シティプロモーション</li> </ul>
③ (生み出す) 実証プロジェクトの誘発	「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」の形成を後押しするため、オープンイノベーション支援施策を充実させ、国土縮図型都市浜松における実証プロジェクトの誘発を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実験の募集と実施支援</li> <li>スタートアップの地域連携の促進</li> <li>デジタル・スマートシティ政策との協調</li> <li>具体的なプロジェクトの設定</li> </ul>
④ (役立てる) 社会実装とビジネス化	「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」の持続的発展のため、社会課題解決イノベーションの創出に向けた実証実験を社会実装につなげ、「域外企業の浜松定着」「浜松発の社会課題ビジネスの創出」を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証から実装まで見据えた「浜松版SBIR制度」の構築</li> <li>成果の発信</li> <li>企業の新規事業創出、共創拠点の誘致</li> <li>社会課題解決とビジネス成長両立の促進</li> </ul>



## 4. 将来像に向けた施策

### (1) 施策体系

#### ① (整える) 浜松市の環境整備

スタートアップ支援やオープンイノベーション推進に加え、浜松市が持つあらゆる資源の発掘・育成と棚卸しを行い、地域内連携を強化することで「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」形成のための環境を整備する。

#### 重点ポイント

スタートアップ支援	<ul style="list-style-type: none"><li>「浜松市スタートアップ戦略」に基づき、「スタートアップの創出」「スタートアップの経営力強化」「資金調達環境の整備」「スタートアップの誘致」「スタートアップ支援力の強化」等の各戦略を推進する。</li></ul>
オープンイノベーションの推進	<ul style="list-style-type: none"><li>これまでの技術先行型のイノベーションから、地域課題等市場ニーズを基にした「市場共創型」のオープンイノベーションへの移行を図る。</li><li>スタートアップ、大学、異業種との連携等による新事業展開を促進する。</li></ul>
次世代人材の育成	<ul style="list-style-type: none"><li>まちなか都心部のスタートアップ&amp;リノベーション拠点施設「Startup Cross Hamamatsu」を活用し学生を対象とした起業・アントレプレナーシップ醸成コミュニティを運営する。</li></ul>
市域内での連携強化	<ul style="list-style-type: none"><li>首都圏等大都市へのアクセスや多様な人材に恵まれるまちなか都心部と自然豊かで社会課題解決型イノベーションのヒントを有する中山間地域の玄関口である天竜区二俣地区の間で、地域特性を生かした連携を促進する。</li></ul>
地域資源と課題の把握、集約	<ul style="list-style-type: none"><li>はままつスタートアップ・イノベーション拠点推進協議会に加え、各種の産学官連携の枠組み・プラットフォームを活用して地域資源や課題を把握、集約し、大都市への情報発信につなげる。</li></ul>
まちの魅力向上	<ul style="list-style-type: none"><li>首都圏等大都市からの関心を集めクリエイティブな人材を引き寄せるため、まち自体の利便性・魅力向上、エリア価値上昇を図るとともに、DIEB (Diversity, Equity, Inclusion &amp; Belonging) を重視した多様性を生かしたまちづくりをすすめる。</li></ul>

## 4. 将来像に向けた施策

### (1) 施策体系

#### ② (つながる) 浜松市と首都圏等大都市との連携・交流

首都圏等大都市のスタートアップ等への情報発信を行い、浜松ファンを作り、浜松地域と関係性を持つ企業を増やし、先進的な資源との連携を強化することで、「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」の形成を目指す。

#### 重点ポイント

首都圏イノベーション拠点施設等を通じた情報発信	• 首都圏イノベーション拠点施設等にて、浜松市の社会課題の提示や実証実験の誘致、地域企業の技術や魅力の発信などを行うことにより、首都圏等大都市の企業・スタートアップとの協業による社会課題解決をテーマにした新ビジネスを誘発する。
首都圏ビジネス情報センターによる情報発信	• 浜松市が設置する首都圏ビジネス情報センターにおいて、各イベントや展示会の機会等を捉えながら、スタートアップその他の首都圏企業に対して浜松市の情報提供を行い、浜松市への企業誘致や、首都圏企業と浜松地域企業との共創の促進に向けた活動を進める。
浜松市のイノベーション拠点施設の活用	• まちなか都心部の「Startup Cross Hamamatsu」、沿岸部の「舞阪サテライトオフィス」、中山間地域の「天竜トリアルオフィス」といった市営施設や、「Co-startup Space & Community FUSE」等の民営施設を活用し、首都圏等大都市の人材を受け入れる。
ブランディング	• 多くの地方都市が存在する中で大都市の企業の興味・関心を引くため、地域資源、歴史資源、産業資源等を活用した認知度向上のためのブランディングを行い、他都市との差別化を図る。
シティプロモーション	• 広い層の関係人口、関係企業等、浜松と関係を持つ浜松ファンの発掘につなげるため、企業誘致のみならず、幅広い層に訴求するシティプロモーションを実施する。

## 4. 将来像に向けた施策

### (1) 施策体系

#### ③ (生み出す) 実証プロジェクトの誘発

「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」の形成を後押しするため、オープンイノベーション支援施策を充実させ、国土縮図型都市浜松における実証プロジェクトの誘発を図る。

#### 重点ポイント

実証実験の募集と実施支援	<ul style="list-style-type: none"><li>浜松市内をフィールドとした、社会課題解決や市民生活の質の向上につながる独自の技術やアイデアを活用した実証実験プロジェクトを広く募集し、実証実験を全面的にサポートする。</li></ul>
スタートアップの地域連携の促進	<ul style="list-style-type: none"><li>地域の大企業・中堅企業・中小企業それぞれが抱える課題を踏まえながら、ベンチャーキャピタルとのネットワークの活用や「浜松市スタートアップ地域メンター」の活用、地域企業とスタートアップの双方を理解する人材の育成等の取組を通じ、市内企業とスタートアップのマッチングの環境を整備し、実証実験や協業等を促進する。</li></ul>
デジタル・スマートシティ政策との協調	<ul style="list-style-type: none"><li>データ連携基盤活用モデル事例創出事業「Hamamatsu Ori-Project」など、AIやICT等先端技術と都市の有する様々なデータの活用を通じた官民連携によるイノベーション創出の取組を進める。</li></ul>
具体的なプロジェクトの設定	<ul style="list-style-type: none"><li>浜松市の地域資源や魅力、また課題を踏まえ、重点テーマを定め、社会にインパクトをもたらす具体的なプロジェクトを企業間共創で実現すべく様々な分野の企業が集まり、議論や実証実験を進める。</li></ul> <p>重点テーマの例：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①次世代モビリティ (キーワード：ドローン、エアモビリティ、パーソナルモビリティ、自動運転 など)</li><li>②環境・エネルギー (キーワード：カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、林業テック、海洋テック など)</li><li>③食 (キーワード：フードテック、アグリテック、美食、食と健康 など)</li></ul>

## 4. 将来像に向けた施策

### (1) 施策体系

#### ④ (役立てる) 社会実装とビジネス化

「はままつスタートアップ・イノベーション拠点」の持続的発展のため、社会課題解決イノベーションの創出に向けた実証実験を社会実装につなげ、「域外企業の浜松定着」「浜松発の社会課題ビジネスの創出」を目指す。

#### 重点ポイント

実証から実装まで見据えた「浜松版SBIR制度」の実施	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 浜松版SBIR制度（浜松地域において、浜松市及び関係機関が連携して、社会課題解決などをテーマに地域中小企業の新事業開発（研究、技術開発、PoC）とその成果の事業化を一貫して支援する制度）として、行政課題の提示（地域における社会課題を提示）から、研究開発支援（研究開発費及び事業可能性調査の補助）、実証実験募集と実施支援、さらには公共調達と製品PRまでの、シームレスな支援を行う。</li></ul>
成果の発信	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域発イノベーションの成果を、首都圏等大都市のイノベーション拠点施設において発信することにより、全国、さらにグローバルに展開するとともに、更なる協業の展開を図る。</li></ul>
企業の新規事業創出、共創拠点の誘致	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 域外企業の浜松定着を確実なものとするため、「まちなか都心部」及び「天竜区二俣地区」を中心に、商店街等街中や近隣産業用地等への、企業の新規事業創出、共創の拠点となるラボ的施設の誘致に取り組む。</li></ul>
社会課題解決とビジネス成長両立の促進	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 政府の動きとも連携しつつ、インパクトスタートアップ等が社会課題の解決と持続的な経済成長の両立を実現するための課題を洗い出し、必要な支援策を全国に先駆けて検討・実施していく。</li></ul>

## 5. ロードマップ

### (1) KGI

- 拠点の将来像を目指すためのロードマップとして、KGIを定める。

KGI	基準値	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
市内へのスタートアップ進出数	19	12	20	22	25	28
企業間連携による PoCプロジェクト件数	新規 設定	1	3	4	5	6

※浜松市スタートアップ戦略の改訂等に合わせて見直す場合があります

## 5. ロードマップ

### (2) 推進体制

- ビジョン推進にあたっては「はままつスタートアップ・イノベーション拠点推進協議会」がビジョンに係る進捗管理等を実施する。

#### 協議会参画機関

区分	名称
支援機関	浜松商工会議所 天竜商工会 (公財) 浜松地域イノベーション推進機構
金融機関	(株) 静岡銀行 浜松磐田信用金庫
地域内企業	スズキ(株) ヤマハ発動機(株) 山ノ舎 (同) アトラス
地域外企業	CIC Toranomom (同)
大学	静岡大学 浜松医科大学
市町村	浜松市

